

学 科	作業療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学Ⅶ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部1年	学期及び曜時限	後期	教室名	803/基礎医学
担 当 教 員	椿原 一郎				
実務経験と その関連資格	作業療法士として身体障害領域の病院に勤務。 各種心身機能に関する評価を実施。 作業療法学(修士)				
《授業科目における学習内容》 作業療法士にとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 骨模型で関節面の形状や名称を確認し、テープを張り付けることで、関節包や靱帯の付着やはたらきを確かめることができる。 筋肉模型で筋名を確認して、骨模型とテープで個々の筋肉の起始・停止・作用を確かめることができる。					
《成績評価の方法と基準》 本試験 : 70% 小テスト : 30%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村 巖編 医学書院					
《授業外における学習方法》 教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問して解決すること。積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。友達 同士で教え合うこと。					
《履修に当たっての留意点》 実際に動かす・触る・声に出すなど、表現できることが大切です。 まずは体験して、感覚的に覚えていくことも同時に行うことで学習が進みます。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第 1 回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。	教科書 3章	教科書を読むこと。	
	各コマにおける授業予定	上肢の連結: 上肢帯・肩関節・肘関節		友たち同士で問題を出し 合いながら学習すること。	
第 2 回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。	教科書 3章	教科書を読むこと。	
	各コマにおける授業予定	上肢の連結: 上肢帯・肩関節・肘関節		友たち同士で問題を出し 合いながら学習すること。	
第 3 回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。	教科書 3章	教科書を読むこと。	
	各コマにおける授業予定	下肢の連結: 下肢帯の連結・股関節・膝関節		友たち同士で問題を出し 合いながら学習すること。	
第 4 回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。	教科書 3章	教科書を読むこと。	
	各コマにおける授業予定	下肢の連結: 足関節・足の関節 下肢の連結実習		友たち同士で問題を出し 合いながら学習すること。	
第 5 回	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止・作用とは何かを説明できる。骨格筋の神経を概説できる。筋の補助装置(筋膜・支帯・腱鞘など)を列挙して、その働きを説明できる。	教科書 4章	教科書を読むこと。	
	各コマにおける授業予定	筋系総論: 筋の形状、起始、停止、作用、支配神経、筋の補助装置		友たち同士で問題を出し 合いながら学習すること。	

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで個々の筋肉を表現して、その作用と神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	上肢の筋：上肢帯の筋・上腕の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第7回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで個々の筋肉を表現して、その作用と神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	上肢の筋：上肢帯の筋・上腕の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第8回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで個々の筋肉を表現して、その作用と神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	上肢の筋：上肢帯の筋・上腕の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第9回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	下肢の筋：下肢帯の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第10回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	下肢の筋：下肢帯の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第11回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	下肢の筋：下肢帯の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第12回	授業を通じての到達目標	主な筋肉の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。 呼吸運動にかかわる筋を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	体幹の筋：頭蓋・頸部・胸部の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第13回	授業を通じての到達目標	主な筋肉の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。	教科書 骨模型	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	体幹の筋：腹部、背部の筋		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第14回	授業を通じての到達目標	腎臓の肉眼構造・顕微構造、及び腎臓の機能を説明できる。 尿路各部の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	泌尿器系 腎臓と尿路		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。
第15回	授業を通じての到達目標	体循環と肺循環、動脈と静脈と毛細血管、動脈血と静脈血、吻合を述べることができる。 心臓の所在と大きさ、心臓壁と心膜の構造を説明できる。	教科書	教科書を読むこと。
	各コマにおける授業予定	循環器系総論：血管の構造・吻合・体循環・肺循環 循環器系各論：心臓の所在と大きさ、心臓の壁、心膜		友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。